

2022年3月5日(土)10:00~11:30、本会会員で、世界銀行東京事務所でもコンサルタントとして勤務されている池上隆夫氏をお招きしてオンライン報告会を開催しました。事前登録された会員15名程度が参加されました。お話の題目は「世銀新調達規則と Quality Infrastructure: 日本企業の IPF project 参加状況」でした。

池上さんは、1973年早稲田大学 理工学部土木工学科ご卒業後、日本鋼管(株)に入社され、国内外の上下水道プロジェクト担当されておられました。1985年にMITのUrban Studies and Planningに留学され、Master of City Planning (MCP)を修了。1989年から 世銀のアフリカ局、欧州中央アジア局、東アジア局にWater Sector Engineerとして勤務されました、欧州中央アジア局ではP A S (Procurement Accredited Staff)としてWater Sectorの調達業務にも従事されました。2011年12月に定年退職され、2013年からは、東京事務所 で主にプロジェクト関連の情報サービスやドナーファンド採用プログラム選考委員を担当されておられます。

池上さんからは、添付のPDF資料に基づき世銀の調達制度の最近の動向変化についてご説明がありました。詳細は添付資料をご覧ください。お話では、Donor-funded Staffing Program: DFSP についてもご説明がありました。このプログラムは毎年十人ほどの日本人を採用し日本人職員の増員に貢献しているとのことですので皆さまのお知り合いの若い方にも是非ご紹介頂きたいとのことでした。

参加会員の皆様のうち7名(小林さん、吉村さん、児島さん、浅沼さん、浦田さん、高間さん、吉田さん他)の方々からご質問を頂きました。①世銀の Value for Money を志向した調達制度改革は世銀自身の経験に根差した内発的なものでもあるか、②PPPやIFCの調達制度との関係性如何、③中国新疆ウイグル自治区にける人権問題との牽連性如何、④人権問題についてサプライチェーンマネジメントという観点での世銀の調達管理の現況如何、⑤借入国政府の反応・評価如何、⑥本制度の事後評価如何、⑦世銀のエンジニアの関与如何、⑧理事室の関与・地場調達推進状況等々。

ご報告頂きました池上さんには心より感謝しております。ありがとうございました。

(記録: 安間)